

大阪大学図書館報

Vol.34 No.2/3 Dec. 2000 (平成 12 年) 通巻 137 号

目 次

- 新しい附属図書館本館
- 朝鮮語図書の検索について
- 教官著作寄贈図書
- お知らせ
 - ・人文科学系特別図書、高額参考図書の購入について
 - ・吹田分館ホームページのリニューアル
 - ・OPACコマンド版のサービス終了
- 会議・日誌

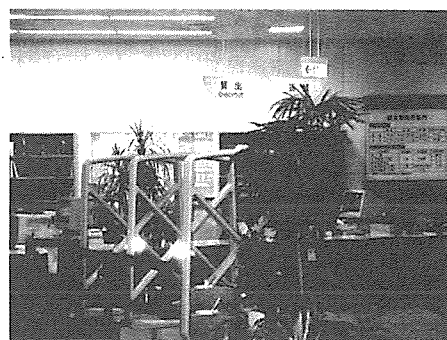
新しい附属図書館本館

前号でお知らせしましたように、平成 12 年 3 月 28 日、豊中地区に附属図書館本館新館の建物 (9,432 m²) が竣工しました。その後、各種設備の据え付け、資料の移動などの作業を行い、8 月 30 日には竣工披露式典を行いました。9 月 1 日より、既設建物と合わせて総面積 18,920 m² の大規模図書館として開館しています。

以下、新しい本館の概要を紹介します。A 棟が新館、B 棟が既設建物北側の改修部分、C 棟が既設建物南側を指します。(4 頁の配置図参照)

< A 棟 >

A 棟の 2 階には正面玄関があり、図書館のメインフロアとなっています。玄関を入ったところに新しい図書館の窓口であるメインカウン

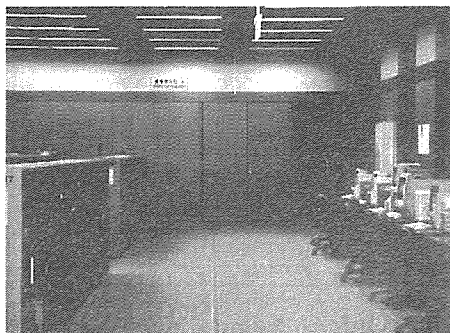


入退館ゲートとメインカウンター

ターがあります。メインカウンターでは総合案内、資料の貸出・返却、各種施設や特殊資料の利用受付、利用者票の発行受付、購入希望図書の受付等の諸業務を行っています。

2 階の閲覧スペースは、大部分が参考図書のコーナーになっており、辞書、事典類が配置さ

れています。参考図書コーナーの横の端末コーナーでは、OPAC及び各種データベースを提供しています。(→<図書館内の情報機器>参照)



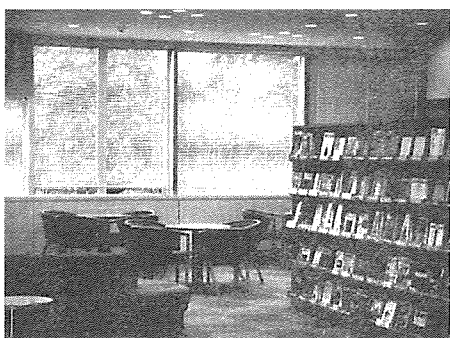
参考図書と情報検索コーナー

また、玄関横にはラウンジがあり、くつろいだ雰囲気の中でその日の新聞を読むことができます。

3階には、主として学部学生が利用する学習用図書・教養図書(NDC分類000～399)が配置された閲覧室、マルチメディア・ネットワーク・コーナー、リフレッシュ・ロビー、マイクロ資料室があります。

マルチメディア・ネットワーク・コーナーは、新館の基本構想に打ち出された「マルチメディア・ライブラリー機能」の中核として設置されたスペースで、ビデオ・オン・デマンド、遠隔講義システム、各種視聴覚資料、マルチメディア資料、海外衛星放送の利用が計画されていますが、現在はまだ大部分が整備中です。

(→<図書館内の情報機器>参照)



リフレッシュ・ロビー

「リフレッシュ・ロビー」は、2階のラウンジとともに、図書館内のくつろぎのスペースとして設けられたコーナーです。ここには、一般商

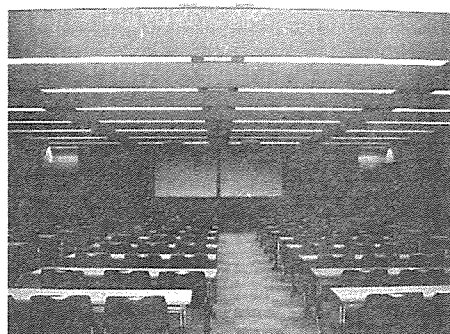
業誌の新作分が配置してあります。

4階の閲覧室には、3階からの続きで、学習用図書(NDC分類400～999、及び大型本)が配置してあります。また、西側には研究個室が5室、グループ学習室が3室あります。研究個室は本学の教職員及び学部学生3年以上、グループ学習室は本学の構成員すべてが利用可能です。申込みはメインカウンターで受け付けています。

5階には約30万冊収容可能な電動集密書架が設置されています。ここに配置されている資料は、主として人文・社会系の雑誌、及び理工系雑誌のバックナンバー(概ね1970年以前)です。

また、5階の西側には研究個室が15室あります。こちらの研究個室の利用もメインカウンターで受け付けています。

6階には本館の新しい施設、図書館ホールがあります。このホールは約150人収容可能で、図書館関係の各種行事等に使用する予定です。



図書館ホール

このフロアには貴重図書室もあります。現在はまだ整備途中ですが、貴重書コレクションの一部や懐徳堂の遺物が配置されています。この貴重図書を利用するには、メインカウンターで申込みが必要です。

このフロアには図書館事務スペースも置かれています。ここは将来システム管理部門となり、電子図書館機能の中核として機能する予定です。

なお、A棟1階の閲覧室には電動集密書架を設置し、研究用図書等を配置する計画になっています。今のところまだ電動書架は未整備ですが、日本紡績協会から寄贈された資料の仮置場として使用されています。(まだ未整理のため、

一般利用者には開放されておりません。)

<B棟>

B棟は全面的に改修され、A棟と各階で連絡しています(1階を除く)。

2階には文献を調べるための書誌・索引類、理工学研究科から移動した Chemical Abstracts などの抄録類が配置してあります。OPACで検索できない古い図書の所在を調べるためのカード目録もあります。

A棟とB棟はフロアの高さが違うため、3階、4階では階段で接続しています。なお、2基あるエレベーターのうち1基はA棟の3階・4階に、もう1基はB棟の3階・4階に止まるようになっています。

B棟3階には、学習用図書の一部(文庫・新書、同和・人権図書、中田文庫)、参考図書の一部(白書・統計・年鑑、法令・判例、地図)が配置されているほか、留学生のための図書と閲覧スペースを備えた留学生コーナーがあります。



B棟3階

4階にはサイバーメディアセンター教育用システムの端末約80台を設置した分散端末コーナーがあります。ここは図書館の中でもっとも利用されているコーナーのひとつで、連日多くの学生でにぎわっています。(→<図書館内の情報機器>参照)

このフロアにはグループ学習室も2室あります。利用方法はA棟のグループ学習室と同じです。その他、自習用の閲覧席と展示コーナーもあります。(展示コーナーの企画は、現在検討中です。)

<C棟>

C棟は内部の改修はほとんどされていませんが、機能は大きく変わっています。

2階の基礎工学研究科に面した側に、東側出入口があります。ここが開いているのは平日5時までのみで、土曜・日曜は閉鎖されています。東側出入口を入ったところに参考・相互利用カウンターがあります。



参考・相互利用カウンターと東側出入口

参考カウンターでは参考調査・他大学図書館利用の受付を行っています。相互利用カウンターでは、学内・学外への複写・現物貸借の依頼及び受付、また、館内での複写受付を行っています。こちらのカウンターで資料の貸出・返却はできません。また、業務は5時までとなっています。

カウンター前にはOPAC端末及び所蔵検索用のパソコンが配置されています。パソコンではNACSIS-Webcatや国立国会図書館のWeb-OPAC、英国図書館のOPACなど、学外の所蔵情報を検索することができます。

閲覧室には、旧基礎工学部図書室から引き継いだ雑誌を主とする理工系雑誌が配置されています。2階にあるのは、新着分、及び洋雑誌の前半(A～Journal B.)で、その続きと和雑誌が3階にあります。

<書庫棟>

書庫棟は、資料配置は変わりましたが、建物は以前と変わっていません。出入口はC棟2階のみです。書庫内にあった雑誌類はすべてA棟5階に移動しました。現在は2階から6階に研

究用図書（順次移動中）、6階に貴重図書（一部新館貴重図書室に移動）、1階奥に新聞バックナンバーが配置されています。

＜図書館内の情報機器＞

今回の新館完成により、本館の面積は倍増し、座席数、収容可能冊数も大幅に増えました。中でも増加が著しいのが、利用者用のOPAC端末、パソコン等の情報機器です。増築前は15台に過ぎなかった台数が122台と、8倍以上に増えています。（今後、さらに増加する見込みです。）

図書館内の情報機器は次の4種に大別され、それぞれ利用方法が異なります。

1. OPAC端末

図書館の蔵書検索専用の端末で、A棟の2、4、5階、B棟及びC棟の2、3階と、ほぼ各フロアに分散して、合計16台配置されています。開館時間中どなたでも利用可能です。

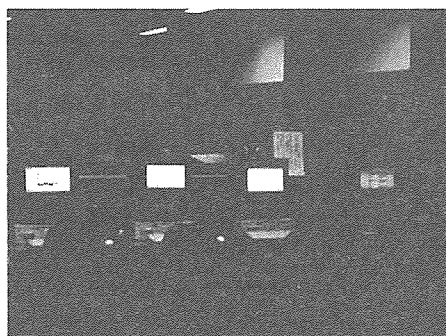
検索ソフトは図書館システム独自のものです。平成13年3月末よりWWWブラウザを利用した新システムに切り替えられる予定です。詳細については図書館報の次号でご案内します。

2. データベース検索用パソコン

図書館のサーバから提供しているデータベース検索システムや、CD-ROMデータベース、インターネットを通じた図書所蔵検索等に利用するパソコンです。現在の台数は8台で、すべて2階に配置されています。利用時間は4時半までとなっています。

3. マルチメディア・ネットワーク・コーナー

A棟3階の同コーナーにパソコンが20台配置されています。インターネットの利用や、大阪大学のサーバから提供されているマルチメディアコンテンツの視聴ができます。電源は利用者自身で入れていただくことになっており、開館時間中利用できます。



マルチメディア・ネットワーク・コーナー

4. サイバーメディアセンター分散端末

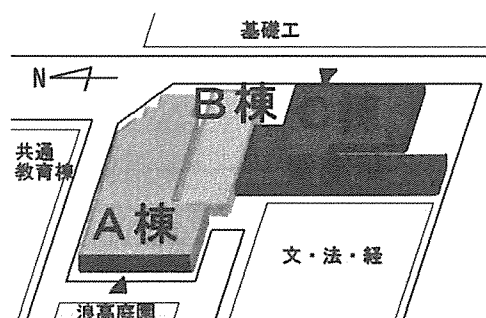
B棟4階に79台配置されています。利用にはサイバーメディアセンターの発行する教育用システムのアカウントが必要です。また、この端末の管理はサイバーメディアセンターが直接行っていますので、利用上の問い合わせ等はすべて同センターに直接行うことになります。

閉館の15分前まで利用できます。

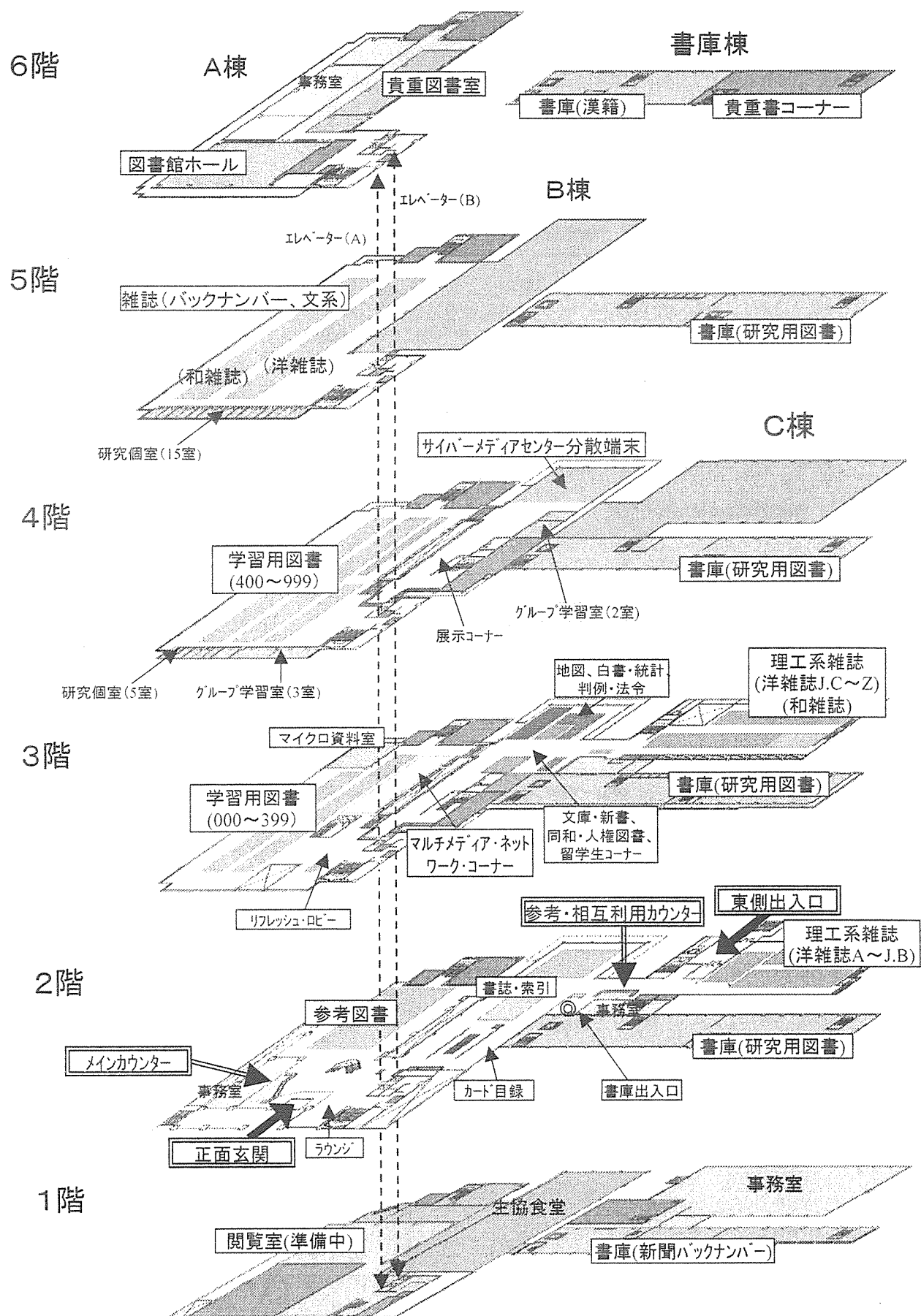


サイバーメディアセンター分散端末

本館建物配置図
（右頁平面図に対応）



本館平面図



朝鮮語図書の検索について

藤田 弘

本学の朝鮮語図書の蔵書検索につきまして、WWW版OPACを中心に簡単に説明します。

なお、2000年12月現在、朝鮮語図書は約1,000冊が入力されています。

(注) 2001年3月更新予定の新図書館システムのOPACでは若干、変更がありますがご了承下さい。

1. はじめに

朝鮮語図書は従来、遺跡調査報告書等をごく少数受入していましたが、ハングルを直接、入力・検索できないため、日本語訳で目録データを作成していました。その後、数年前から言語文化部で朝鮮語図書を相当数購入等することになり、朝鮮語図書の受入が大幅に増加し、従来の日本語訳方式では検索に支障をきたすということで、ローマ字翻字方式で入力・検索できないか検討を重ねてきました。

そして、平成12年度より、大別して、下記の2とおりの方法で目録データを作成し、遺跡調査報告書を除いて、ハングルのローマ字翻字形で、一元的に検索できるようにしています。

※ 翻字方式はISO-METHOD Iを使用。(翻字表はこの項の最後のところをご覧ください)

(1) 遺跡調査報告書

<国立情報学研究所のWEB-CAT又は阪大DBへ登録>

<表記> 漢字の部分はそのまま。ハングルの部分(助詞にあたる部分が多い)は日本語に翻訳。

<索引> 漢字 および かな。

<検索> 一般の和書と同様の検索(漢字、かな検索)。

(2) 遺跡調査報告書以外の図書 <阪大DBのみに登録>

表記の文字の種類によって、下記の3とおりに目録処理していますので、若干検索方法が異なりますが、いずれの場合でも、書名・著者名はハングルのローマ字翻字形での検索が可能です。

① ハングルのみ <表記・索引・検索>ローマ字翻字形。

② 漢字のみ <表記>漢字。

<索引・検索>漢字、かな、ローマ字翻字形(※)。

(※) 書名・著者名のみ漢字をハングルに直し、それをローマ字翻字形に直したものを追加。

③ ハングル漢字混じり

(a) 漢字が半分以上 <表記>漢字はそのまま、ハングルは日本語訳で、漢字又はかな。

<索引・検索>漢字、かな、ローマ字翻字形。

(b) 漢字が半分未満 <表記>漢字はそのまま、ハングルはローマ字翻字形。

<索引・検索>漢字、ローマ字翻字形。

2. 書名・著者名の検索例・・・上記1(2)の遺跡調査報告書以外の図書について

☆ 検索時には、ローマ字翻字形の' (アポストロフィ) 及び - (ハイフン) は入力不要。

(1) ハングル表記の図書検索

書名 : 1950년대 한국 지식인 소설 연구 →表記(1950nyeontae△hankuk△cisik'in△soseol△'yeonku)

著者名 : 이은자 →表記(I△'Eun·ca) △:スペース

① 書名検索

・ローマ字翻字形(ベタ型)での検索

WEB-OPAC 1950nyeontae hankuk cisikinsoseolyeonku [全て▼] (又は書名▼)

但し、英数は30字以上入力しても、30字で検索します。

また、1950nyeontae hankuk cisikin% 等適当な長さでの前方一致検索も有効です(次期:*)

・ローマ字翻字形(分かち型)の組合せ検索(※)

WEB-OPAC 1950nyeontae [全て▼] (又はキーワード▼) [AND▼]

WEB-OPAC hankuk [全て▼] (又はキーワード▼) [AND▼]

WEB-OPAC cisikin [全て▼] (又はキーワード▼) [AND▼]

WEB-OPAC soseol [全て▼] (又はキーワード▼) [AND▼]

WEB-OPAC yeonku [全て▼] (又はキーワード▼) [AND▼]

(※1) 分かちはnacsis-webcatの和書と同様に、国立情報学研究所の和書の方式に準拠しています。

(※2) 新システム(2001年3月更新予定)ではnacsis-webcatと同様に、検索フィールドで、一気にAND検索が可能になります。 1950nyeontae△hankuk△cisikin△soseol△yeonku

② 著者名検索

WEB-OPAC i△eunca

[全て▼] (又は著者名▼)

[検索結果]

1950nyeontae hankuk cisik'in soseol 'yeonku / 'I 'Eun-ca. - Seo'ul : 'Thaehaksa, 1995.6. - 350p ; 23cm. - (Hyeontae munhak sinseo ; 12)

RM:1950nyeontae hankuk cisik'in soseol 'yeonku

情報源の表示はハングル表記

(2) 漢字表記の図書検索

書名 : 1920 年代韓国小説研究

(ハングルに直すと「1920 년대한국소설연구」)

著者名 : 宋河春

(ハングルに直すと「송하춘」)

※ 漢字検索、日本語かなヨミ検索以外に、下記のようにローマ字翻字形検索が可能です。

① 書名検索

- ・ローマ字翻字形 (ベタ型) での検索

WEB-OPAC 1920nyeontae hankuk soseol 'yeonku

[全て▼] (又は書名▼)

- ・ローマ字翻字形 (分かち型) の組合せ検索は省略。

② 著者名検索

WEB-OPAC song△hachun

[全て▼] (又は著者名▼)

[検索結果]

1920 年代韓国小説研究 / 宋河春著. - 再版. - [Seo'ul?] : 高麗大學校民族文化研究所, 1995.10. - iv, 257p ; 23cm. - (民族文化研究叢書 ; 19)

VT:1920 年代韓国小説研究

RM:1920nyeontae hankuk soseol 'yeonku

RM:1920nyeontae hankuk soseol 'yeonku

初版は(1985)

PTBL:RM:Mincok munhwa 'yeonku 'chongseo

AL:RM:Song, Ha-'chun

(3) ハングル漢字混じり (漢字が半分以上) 表記の図書検索

書名 : 新羅・伽倻社會의起源과成長

(ハングルに直すと「신라・가야사회의기원과성장」)

著者名 : 李盛周

(ハングルに直すと「리성주」)

※ 漢字・かな混じり検索、日本語かなヨミ検索以外に、下記のようにローマ字翻字形検索が可能です。

① 書名検索

- ・ローマ字翻字形 (ベタ型) での検索

WEB-OPAC sinrakayasahoe'yikiweonkwaseongcang

[全て▼] (又は書名▼)

- ・ローマ字翻字形 (分かち型) の組合せ検索は省略。

② 著者名検索

WEB-OPAC ri△seongcu

[全て▼] (又は著者名▼)

[検索結果]

新羅・伽倻◆U503B◆社會[の]起源[と]成長 / 李盛周著. - [Seo'ul] : 學研文化社, 1995.8. - 470p ; 24cm. - (學研文化社考古學叢書 ; 17)

VT:新羅・伽倻◆U503B◆社會[の]起源[と]成長

RM:Sinra · ka'ya sahoe 'yi ki'weon kwa seongcang

RM:Sinra · ka'yasaheo'yiki'weonkwaseongcang

情報源の表示はハングル表記を含む

PTBL:RM:Hak'yeon munhwasa kokohak 'chongseo

AL:RM:Ri, Seong-cu

(注) ◆U503B◆ …… 倻という字がJISにないので、UCSコードで倻を表示しています。

3. ハングルのローマ字翻字表

TABLE 1 - Consonants

No.	Korean	Latin (Method I)
1	ㄱ	k
2	ㅋ	'kh
3	ㆁ	'kk
4	ㄷ	t
5	ㅌ	'th
6	ㄴ	'tt
7	ㅍ	p
8	ㅑ	'ph
9	ㅓ	'pp
10	ㅕ	c
11	ㅗ	'ch
12	ㅛ	'cc
13	ㅜ	s
14	ㅠ	'ss
15	ㅎ	h
16	ㅇ	' / ng
17	ㄹ	n
18	ㄷ	r / l
19	ㅁ	m

TABLE 2 - Vowels

No.	Korean	Latin
20	ㅏ	a
21	ㅓ	eo
22	ㅗ	o
23	ㅜ	u
24	ㅡ	eu
25	ㅣ	i
26	ㅐ	ae
27	ㅔ	e
28	ㅚ	oe
29	ㅑ	ya
30	ㅓ	yeo
31	ㅛ	yo
32	ㅠ	yu
33	ㅐ	yae
34	ㅔ	ye
35	ㅚ	wa
36	ㅑ	weo
37	ㅓ	wi
38	ㅛ	wae
39	ㅔ	we
40	ㅚ	yi

典拠：『Technical report. (ISO TR11941). First edition. 1996-12-01. Information and documentation - Transliteration of Korean script into Latin Characters (Reference number ISO/TR 11941:1996(E))』より一部修正。

(注1) ISO翻字表案 METHOD I の使用について

ISO翻字表案には子音の翻字方式としてMETHOD I と METHOD II がありますが、阪大ではMETHOD I を採用しています。

- ① NO. 16 (ㅇ): 初声の場合には<'> (アポストロフィ)、終声の場合には<ng>と翻字します。
- ② NO. 18 (ㄷ): 初声の場合には<r>、その他の場合には<l>と翻字します。
- ③ <'> (アポストロフィ) の使用について

ISO翻字表案 METHOD I では、朝鮮語の[激音]と[濃音]、[イウンの初声]の場合 (上記の表の網掛けの文字)、多音節語の2番目以降の音節の最初の位置に来る際に、<'> (アポストロフィ) を入力することになっていますが、阪大では入力ミス避ける等のため、一律にすべて<'> (アポストロフィ) を入力することとしています。

[補足] ISOの翻字方式について下記の最新情報もありましたが、阪大ではこの方式を採用しています。

情報・ドキュメンテーション標準化ニューズレター No. 12 (2000) 「2. SC2 (書き言葉の変換)」

(<http://www.dpc.or.jp/dpc/jpn/tc46/tc46-n112.htm>)

(注2) 漢字の翻字について

① 漢字をハングルにするための参考資料

天理大学 (朝鮮学科研究室) 発行の『簡便日韓漢字字典』(1975年)に準拠しています。

② 漢字に対応するハングルが2つある場合について

漢字に対応するハングルが2つある場合には、意味を考慮して、どちらかに決定しています。その際、著者名については『朝鮮語辞典』(1993年、小学館発行)の付録の最後の頁も参考にしています。

③ 漢字の頭音法則 (ㄹ, ㄷ) について

韓国で採用されています頭音法則については翻字ミス避ける等のため適用していません。

(例) 年表 「nyeon'phyo ○」「yeon'phyo ×」 李 「ri ○」「i ×」

歴史 「ryeoksa ○」「yeoksa ×」 論文 「ronmun ○」「nonmun ×」

※ 参考文献：吳満編著『ハングル正書法の解説』第5節 頭音法則 (1992年、白帝社発行)

(ふじた ひろし 情報サービス課参考調査掛長)

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (2000/July-Nov.) ■■■■■

本 館	
梅 溪 昇 (名誉教授)	教育勅語成立史 / 梅溪昇著 東京：青史出版, 2000 (天皇制国家観の成立 下)
徂 徠 道 夫 (理、教授)	物理化学実験法 / 千原秀昭、徂徠道夫編 第4版 東京：東京化学同人, 2000
	基礎物理化学実験法 / 千原秀昭、徂徠道夫編 東京：東京化学同人, 2000
池 谷 元 伺 (理、教授)	地震前動物為何起騷動：電磁地震学之誕生 / 池谷元伺原著；黄清華翻譯 基隆：水産出版社, 2000
吹 田 分 館	
中 井 貞 雄 (工、教授)	レーザー工学 / 中井貞雄編著 東京：オーム社, 1999 (新世代工学シリーズ)
	パワーレーザーの技術 / 中井貞雄編著 東京：オーム社, 1999
森 康 男 (工、教授)	交通安全学：新しい交通安全の理論と実践 / 大阪通科学研究会編 大阪：企業開発センター交通問題研究室, 2000
村 橋 俊 一 (基礎工、教授)	Reactive organometallics / edited by Shun-ichi Murahashi, Yoshihiko Moro-oka, Akio Yamamoto. Tokyo : Kodansha , 1998
西 尾 章 治 郎 (工、教授)	実践SQL教科書：ポイント図解式 / マルチメディア通信研究会編 東京：アスキー, 1996 西尾章治郎監修
藤 岡 弘 (工、教授)	セメスタ対応計算機システム：ハードウェアの基礎 / 藤岡弘, 中前幸治共著 東京：昭晃堂, 2000
微生物病研究所図書室	
野 島 博 (微研、教授)	新細胞周期のはなし / 野島博著 東京：羊土社, 2000

(今回掲載できなかった分については次号に掲載します。)

■■■■■ お知らせ ■■■■■

●平成12年度人文科学系特別図書、高額参考図書の購入について

10月23日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、以下の資料の購入が決定しました。

人文科学系特別図書

1. オーストラリア・オセアニア関係文書

19世紀から20世紀前半までのオーストラリア、オセアニア地域関係資料。(マイクロフィルム)

2. ドイツ民俗学資料集成

ドイツ文化圏の民俗資料。原典と研究のプリント。

3. ロシア司法省雑誌

1858年から1917年まで出版されたロシア司法省公式雑誌。(マイクロフィッシュ)

4. 日刊工業新聞

1955年から64年までの日刊工業新聞のマイクロフィルム版。

この他、『敦煌吐魯番文献集成』、『日本立法資料全集別巻』の一部も購入。

高額参考図書

1. The New Grove Dictionary of Music and Musicians. 2nd ed.

音楽と音楽家についての総合事典の最新版。

2. 明治・大正・昭和前期雑誌記事索引集成社会科学編

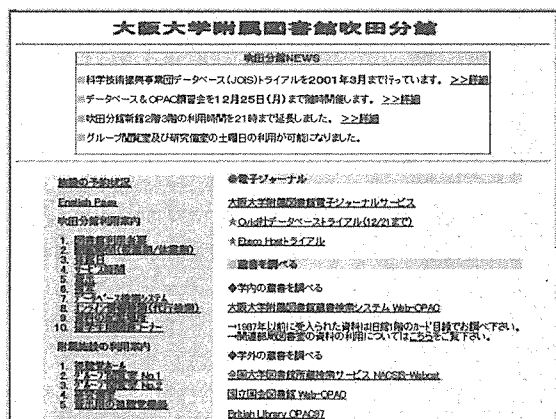
『雑誌記事索引』刊行以前の、明治期から昭和23年までの記事索引。

3. Preussische Statistik. Amtliches Quellenwerk. 1861年から1934年までのプロイセンの公式統計資料集。(マイクロフィッシュ)
4. Encyclopedia of Analytical Chemistry. 化学、生化学、物理学等広範囲にわたる分析法をまとめた百科事典。
5. Allgemeine Deutsche Biographie. 1900年以前のドイツ語圏の重要人物約26,300人を収録した人名事典。
6. Encyclopedia of Statistical Science. 統計学の基本的百科事典の最新版。
7. Encyclopedia of Separation Science. 分離科学に関する最新の事典。
8. Encyclopedia of Hinduism. ヒンドゥー教に関する百科事典。
9. Grand dictionnaire universel Larousse du XIX^e siècle. 1876-79年に発行されたラルース百科事典のリプリント版。
この他、『日本人物情報体系』の一部も購入。

●吹田分館ホームページのリニューアル

吹田分館では工学研究科・工学部／関連部局に的を絞ったサービスをおこなうために、平成12年8月ホームページをリニューアルしました。一覧性を高め、最小限の操作で目的の情報が利用できるようにしました。吹田分館内の各附属施設の案内を掲載し、その予約状況を確認できるようにしています。特許情報の検索・関

覧、J I S (規格) 検索するため、特許情報やJ I S 目録とリンクを貼りました。これからのサービスの充実を図りたいと考えておりますので、ご意見等がありましたらお寄せ下さい。
(メールアドレス: sunyo01@library.osaka-u.ac.jp)
URL <http://www.library.osaka-u.ac.jp/suita>



●OPACコマンド版のサービス終了

附属図書館では、telnet 及び電話回線経由で提供しているコマンド版OPACの提供を、2000年をもって終了することにいたしました。2001年1月より、OPACの利用はWWW版でのみ可能となります。

コマンド版OPACは1989年1月より電話回線経由でのサービスが開始され、1994年9月には学内LANを通じてインターネットでも利用できるようになりましたが、WWW版OPACのサービス開始以来、コマンド版OPACの利用件数は激減していました。

■■■■ 会 議 ■■■■

分館長会議

6. 14 (水) 16:00 ~ 17:45

以下の各議題について検討した。

1. 国立大学図書館協議会理事会の報告
2. 本館新館オープンの準備
3. 図書館委員会のフォローアップ
4. サイバーメディアセンターとの連携
5. 設置形態検討委員会専門委員会の報告
6. ユニバーシティ・ミュージアム構想検討委員会の報告

研究開発室会議

7. 4 (火) 13:30 ~ 15:30

以下の各議題について検討した。

1. 懐徳堂・適塾資料のデジタル化の現状
2. 本館新館オープンに向けて
3. 電子図書館の推進

4. サイバーメディアセンターの委員会との関係
5. 「全学共通教育機構」の講義への参加の検討

体系検討小委員会

7. 11 (火) 10:00～11:35

以下の各議題について検討した。

1. 学生用図書費の増額要求
2. 教官購入図書の書架配置
3. サイバーメディアセンターとの連携

分館長会議

7. 17 (月) 9:30～11:00

以下の各議題について検討した。

1. 国立大学図書館協議会の報告
2. 本館新館オープンの準備状況

分館長会議

7. 24 (月) 9:30～9:55

1. 図書館委員会の打ち合わせを行った。

図書館委員会

7. 24 (月) 10:15～12:15

1. 平成12年度予算配分について審議し、原案のとおり承認された。
2. 次期附属図書館長候補者の選考日程について審議し、原案のとおり承認された。

生命科学分館運営委員会

7. 31 (月) 15:00～17:00

1. 生命科学分館備付学生用図書及び視聴覚資料について審議し、原案のとおり承認された。
2. 平成12年度製本費予備配分について審議し、原案のとおり承認された。
3. 平成13年度生命科学分館部局分担金購入雑誌について審議し、原案のとおり承認された。
4. 生命科学分館内規の改正について審議し、原案のとおり承認された。

吹田地区運営委員会

8. 4 (金) 13:30～15:00

1. 平成12年度学生用図書購入費等執行計画について審議し、原案のとおり承認された。
2. 諸規程等の改正について審議し、原案のとおり承認された。
3. 吹田分館の日曜日開館について、今後も継続して審議することになった。

分館長会議

9. 21 (木) 10:00～11:30

以下の各議題について検討した。

1. 本館新館利用状況
2. 本館新館設備の充実
3. 教官購入図書（在研究室）の図書館内への配架
4. 学生図書の充実
5. 電子ジャーナル問題の取り組み

生命科学分館運営委員会

9. 22 (金) 10:00～11:00

1. 電子ジャーナルの導入について、意見交換を行った。

体系検討小委員会

10. 26 (木) 10:00 ~ 10:35

以下の各議題について検討した。

1. 教官購入図書の書架配置
2. 外国雑誌問題検討WGの設備
3. 日本紡績協会寄贈図書資料の受入れ承認
4. 学生用図書の充実

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

H12.	6. 9	第 69 回近畿地区国公立大学図書館協議会総会	(いこいの村びわ湖)
	6. 14	分館長会議	(生命科学分館)
	6. 15 ~ 22	韓国全南大学来館	(本館、生命科学分館)
	6. 28 ~ 29	第 47 回国立大学図書館協議会総会	(金沢市文化ホール)
	6. 30	外国雑誌センター館会議	(一橋大学)
	7. 4	研究開発室会議	(本館)
	7. 11	体系検討小委員会	(文学部)
	7. 16 ~ 8. 31	本館内移転準備のための休館	(本館)
	8. 31		
	7. 17	分館長会議	(本館)
	7. 24	分館長会議	(文学部)
	7. 24	図書館委員会	(文学部)
	7. 31	生命科学分館図書選定小委員会	(生命科学分館)
	7. 31	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
	8. 4	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
	8. 30	本館新館竣工披露式・祝賀会	(本館)
	9. 1	本館新館オープン	(本館)
	9. 21	分館長会議	(本館)
	9. 22	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
	10. 16 ~ 18	目録システム地域講習会	(本館)
	10. 19 ~ 20	I L L システム地域講習会	(本館)
	10. 19	第 33 回国立七大学附属図書館部課長会議	(福岡ガーデンパレス)
	10. 20	第 74 次国立七大学附属図書館協議会	(福岡ガーデンパレス)
	10. 23	豊中地区図書選定小委員会	(本館)
	10. 26	体系検討小委員会	(本館)
	11. 8	国立情報学研究所公開講演会	(国立京都国際会館)
	11. 13 ~ 16	2000 年京都電子図書館国際会議	(京都大学)
	11. 28	国立大学図書館協議会常務理事会	(京都大学)
	11. 29	国立大学図書館協議会理事会	(京都大学)